

鴻雪爪 （指爪） 漢詩人、僧侶のうち神道家。文化十一年一月一日備後國因島生れ、明治二十七年六月十八日歿（二八四—一九〇四）。字清拙。號山高水長翁、江湖翁、鐵面、雪爪道人、養吾。少時禪門に入り、天保九年入室嗣法、弘化三年大垣全昌寺住職。安政五年松平慶永の聘に應じ、福井孝顯寺に移住。維新後還俗。明治五年教部省御用掛となり、十二年大教正、十七年御藏教管長、金刀比羅神社祠官等々務めた。

夙心（つとこころ） 藤森弘庵、小原鐵心、梁川星巖等と翰墨の交はりを有ち、慶永、鍋島用斐の知遇最も厚かつた。晩年、麴坊吟社の岡本黄石と親交。小林正盛（雨峰）編『鴻雪爪翁山雨樓詩文鈔』（昭和十一年十月五日信之日本社）には、館森袖海撰「鴻雪爪傳」、二島中洲撰「雪爪鴻雪翁碑銘」を附載。

